

しました。私の OW64 はまだまだ進化の余地がある様に思います。これからも心を鋭く、OW64 を進化させていきたいとします。

<ストローク>：ストロークはもらうもの

「どの様なストロークをもらいたいですか？考えてみてください。」この原田先生の発言は非常に衝撃的でした。多くのリーダーシップ研修などではどうやって「他者を承認するか」ということに話がいきがちです。承認して他者のパフォーマンスを上げるということです。しかしながら原田先生は、「もらうストロークを先に決めてください」とおっしゃられ、これは私としては本当に驚いた内容でしたし、「自分が適切な支援をもらえる環境を作る」ということも一つの成功への道なのだと実感し、新たな考えが自分の中に広がりました。

<PCDSS サイクル>

PCDSS サイクルは本当に私の中でじっくりくるモデルでした。と言いますのも、学校の期末試験などでも、「さあ、勉強だ」と考えると、掃除がしたくなったりすることがあったからです。また最後の Share を入れることで、周りからのストロークや部分否定を増やすことにつながり、向上できる可能性を飛躍的に高めると感じました。

<どこまで原田メソッドを応用するか？原田メソッドの長所短所>

私の分野は英語教育・TOEFL 学習です。そうすると利用者さんとしては「とにかく英語のスコアをあげたい！」「そのノウハウを教えて欲しい！」と思われる方も多いことと思います。

原田メソッドは明確に目標を立てることができるというメリットがある反面、そのプロセスが長く、なかなか、全てを作りきることが容易ではありません。また、そうして時間を費やしているうちに肝心の英語学習はなかなか始められないというもどかしさを抱えることとなります。

この課題は、対顧客だけでなく、社内でも Project の遂行に対して、どの程度理解を得られるか、ということに関わって来ます。

このテーマを克服するためには、2 点のアクションが必要だと思っております。1 点目はできる限り、簡易で、主軸をブラさない、長目シートを作成することが必要であるということ、そして、もう一点は私が原田メソッドの意義の説明をしっかりとできる人間になることです。山本隆裕が原田メソッドを用いてどの様に生徒の成長に貢献できるのか、これは本当に今後の自分自身の課題として追い求め、自己成長とともに原田メソッドの活用ができたと思います。

今回は本当に、本当に貴重な機会をいただきまして、ありがとうございました。今後の原田教育研究所の発展を心より祈念致しております。

感謝を込めて

山本隆裕